



クリストフ・ジュールノー

Christophe Journeau

エコール・セントラル・パリ（パリ中央工業大学校）を卒業し、オルレアン大学で博士号を取得した。

1990年、フランス原子力・代替エネルギー庁（CEA）に入庁し、過酷事故に関する実験に基づいた研究開発に従事し、特に CEA カダラッシュ研究所のプリニウス（PLINIUS）施設における燃料デブリに関する研究に 20 年以上にわたり携わる。

現在は、過酷事故に応用される熱水力学および熱力学に関する CEA の国際的エキスパートである。

主な研究テーマは、コリウム拡散、溶融炉心とコンクリートの相互作用、溶融燃料とナトリウムの相互作用、コリウムプール上のエアロゾル発生についてである。

経済協力開発機構（OECD）の福島原子力発電所事故後の安全研究の可能性に関する上級タスクグループ（SAREF）において CEA 代表を務め、福島第一原子力発電所の過酷事故に関するベンチマーク研究（BSAF）およびデブリ標本分析の策定（PreADES）プロジェクトの一員でもある。

また現在、仏 COMEX 社主導のコンソーシアムに参加し、福島第一原子力発電所の燃料デブリのレーザー切断の開発に携わっている。

これまでに 60 本を超える学術論文を執筆している。